

<資料1>

刘霞 2004 「托幼机构教育质量评价概念辨析」 学前教育研究, Studies In Preschool Education, 编辑部邮箱 2004年 05期

幼児教育機関の教育の質の評価に関する概念について

キーワード：幼児教育機関の教育の質の評価、教育の質の評価、概念の区別と分析

本文：

一. 質に関する定義

1. 「質」の詞源：

- ①中国語における詞源：質（古典語：本体・質朴などの意味）、量（古典語：容量・度量）
質量（現代語：二文字で表現する傾向に従って、古典語の「質」の意味を取る）
- ②英語の「Quality」詞源の「Qualis」から来た。価値判断と客観的な事実を述べる二つの意味を持っている。

2. 我が国の質に関する定義：

- ①質というのは商品、過程或はサービスの満足要求や潜在需要の特性と特徴の和である。
- ②具体的な表現：
 - *質は実体の客観的な属性であり、人間が客観的な手段によって質を認識、理解することが出来る。
 - *実体の以上のような特性は独立的に存在するのではなく、主体の需要と結びつきながら存在している。

二. 幼児教育機関の質の定義

1. 概念と範囲

- ①幼児教育機関の質：幼児教育機関の教育が主体のある需要を満足できる特性の和である。
- ②幼児教育機関の教育の質体系における価値関係：価値客体と価値主体
- ③主体：社会主体と個体主体

2. 幼児教育機関の教育価値関係形成図

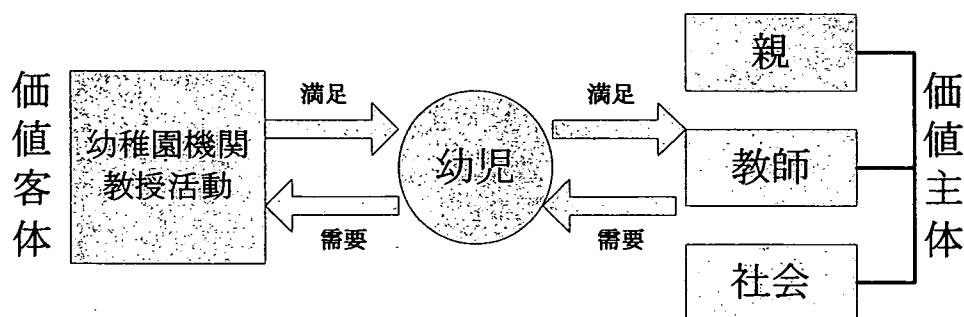


図1 幼児教育機関の教育価値関係形成図

3. 考察：

- ①幼児教育機関の教育の質体系における最も根本的なのは：幼児
- ②主客体の間に価値関係の判断標準：幼児の心身発達の需要
- ③幼児教育機関の教育活動が価値あるかどうかの判断標準：幼児の心身発達の需要

三. 評価に関する定義

1. 「評価」の詞源；

- ①中国語における詞源：評価（古典語：商品の価額を評論する）
- ②英語における詞源：「evaluate」は「value」から来た。「価値や程度を計算する」意味

2. 評価における関係：評価主体と評価客体（評価対象）

3. 幼稚園機関教育の質の評価構成図

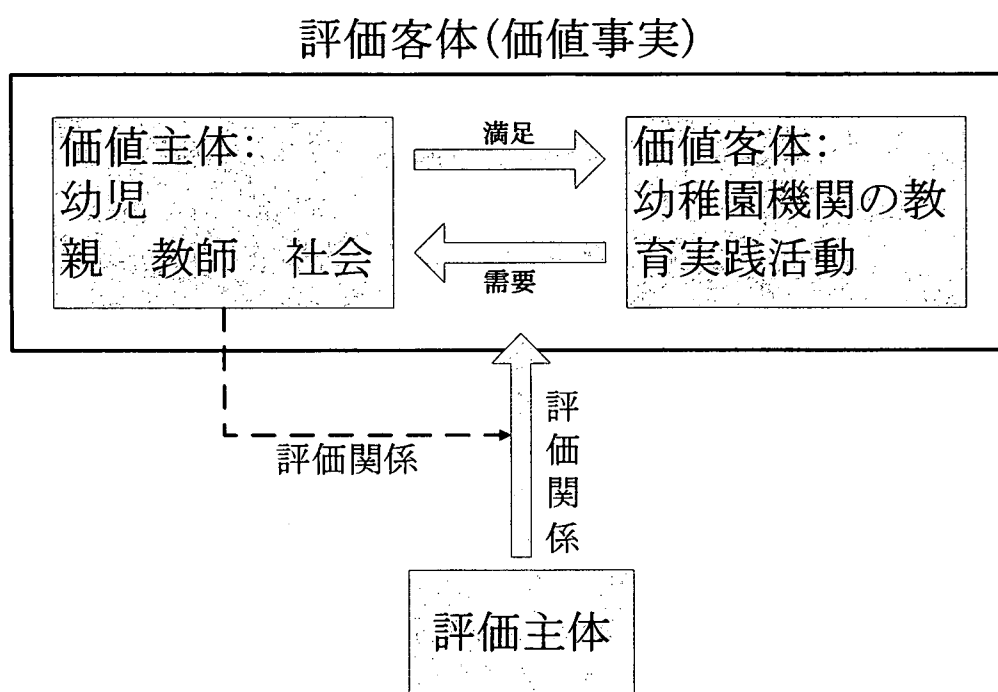


図2 幼稚園機関教育の質の評価構成図

4. 考察：

- ①幼児教育機関の教育の質の評価は、評価主体が評価客体（価値事実）を評価する過程である。
- ②幼児の心身発達を尺度として評価する。
- ③幼児の立場から評価する。
- ④評価主体と価値主体が一つになれる。その時の評価関係が虚線である（図2）。

四. 総合的な考察（明らかになったこと）

1. 幼児教育機関の教育の質の評価における価値事実を明確した。評価の対象は「幼児教育機関の教育実践活動が幼児の心身発達の需要に満足すること」。
2. 幼児教育機関の教育の質を評価する時に、一定の評価標準が必要であり、幼児の立場から評価する必要がある。

我が国が現在幼児教育機関の教育の質の評価手段に関する研究

本文

一. 問題意識

1. 我が国における幼児教育機関の評価の現状:

- ①国から発表された公文: 1989年の『幼稚園の業務規程』、『幼稚園管理条例』
- ②国の公文により各地の評価標準を作成する。例えば1989年『北京市幼稚園等級分類評価標準と細則』及び1994年、2000年の修正案、2000年『広東省幼稚園等級評価の基本標準』など。
- ③わが国の各地現行の幼児教育機関の教育の質の評価手段に関する全体的な分析や比較はほとんどないため、本文ではこの点について整理したい。

二. 研究目的

評価工具の構造や評価標準の二つの面から、我が国の今の幼児教育機関の教育の質の評価手段を検討したい。

三. 研究対象と方法

- ①研究対象: 中国の南、北、中、沿海、内陸の5つの地域により、省(或は省レベル)の単位として計算し、それぞれの評価手段について考察する
- ②研究方法: 文献研究法

四. 結果と考察

1. 5つの省、市の幼児教育機関の評価手段の構造の考察

- ①考察因子: 人員条件、物質条件、教授活動、幼児発達と幼稚園管理

②5の省、市の評価手段の構造分析表

構成要素 評価手段	人員条件	物質条件	教授活動	幼児発達	幼稚園 管理	その他
上海	0.13	0.15	0.10	0.12	0.50	
北京	0.15	0.15	0.13	0.13	0.44	
広東	0.08	0.17	0.12	0.18	0.35	教授研究: 0.05 授業見学: 0.05
福建	0.12	0.15	0.10	0.26	0.34	親の意見: 0.02 受賞状況: 0.01
江西	0.12	0.23	0.11	0.34	0.20	

注: 数字は各構成要素が各地における評価手段との比率を表す

2. 5つの省、市の幼児教育機関の評価手段の類型の考察

- ①考察因子: 素質標準、責任標準、効率標準、効果標準

②5つの省、市の評価手段の類型分析表

標準類型 評価手段	素 質 標 準			責任 標準	効率 標準	効果 標準
	人員	物質	管理			
上海	0.13	0.15	0.42	0.18	/	0.12
北京	0.15	0.13	0.43	0.14	0.02	0.13
広東	0.08	0.16	0.32	0.15	0.01	0.28
福建	0.12	0.15	0.33	0.11	/	0.29
江西	0.12	0.22	0.18	0.13	0.01	0.34

注：数字は各類型の評価標準が各地における評価手段との比率を表す

3. 結論と改善案

①結論：我が国の今の幼児教育機関の評価手段が最も重視するのが幼稚園の管理であり、次に幼児の発達と人員条件、物質条件などであるが、教授活動の部分を無視する傾向がある。

②改善案：

- * クラスの教授活動を中心とする評価が必要、例えば、教師と幼児との相互作用、教育環境の設計と利用など教師の具体的な教授行為を通して評価しなければならない。
- * 幼児教育機関に関する評価の最終の目的が幼児の心身の健康の発達を促すことであるが、幼児の発達結果が幼児教育機関の教育の質を直接に反映できるとは言えない。なので、長い目で幼児の発達状況を評価し、日常生活や自然な教授法を重視する必要がある。

幼稚園の科学的な評価体系の構築と実施（甘肅省を例とする）

キーワード：幼稚園評価 指導思想 役割 特徴 標準

本文

一. 幼稚園評価の指導思想

1. 目標へ方向付けるメカニズムをたてる
2. ダイナミックな激励メカニズムをたてる
3. 幼児教育の改革を促進する

二. 幼稚園評価の内容と標準

1. 幼稚園評価の評価標準を制定する
 - * 格差評価のモデルを使用する
 - * 国の法律や指導思想などに従う
 - * 評価標準の構成要素：素質標準、責任標準、効率標準、効果標準
 - * 条件や結果を分析する
 - * 量的に処理し、量的表を作成する
2. 幼稚園評価の内容と指標：『甘肅省一類幼稚園評価標準』

三. 幼稚園評価実践の実施過程と方法

1. 一定の目的や計画によって実際の調査、データ収集、資料分析、結果判断、行為を指導する。
2. 実践：自己評価—初めての評価（初評）—再び評価（復評）
3. 自己評価：現状を発見する—反省する（問題を気づく）—調整する—行動する
4. 初評：市、州、地などの教育行政部門による評価
5. 復評：省の教育行政部門による評価
6. 評価する時の注意点：全面性、客観性、一致性、発展性

四. 幼稚園評価の特徴分析

1. 評価循環：評価—反省—改正—発展
2. 評価目的：幼児教育の発展を促進すること
3. 評価方法：特徴と量的評価を結びつく
4. 評価内容：全面的な評価と特色がある評価を結びつく

幼児発達の視点から見た現在の評価実践

概要：

幼児教育評価は幼稚園教育仕事にとって重要な一部分であり、教育の適切性・有効性を把握、教育方法を調整や改善、一人ひとりの幼児の発達を促進、教育の質を向上するための必要な手段である。しかし、現在の幼児教育評価が実践上に沢山の問題をもたらしている。本論文では、幼児評価実践の事例を通して、幼児教師に提言をする。

キーワード：発達 評価観 評価標準 評価結果

1. 従来わが国の幼児教育領域における教育活動展開の重要な立脚点：幼児の発達を促進することである。

2. 発達の定義：

①伝統的概念：人間が一定のレベルから、ある事前に決められている目標のレベルに達することを指す。

②新しい発達の概念：ある方向上における質的变化のことを指す。発達の方向が部分的に個体における文化的・人間的要求や特定の環境などに影響されるが、普遍的或は理想的な発達の終点がない。発達は個体が社会的活動に参加することを通して変化されている。

3. 評価実践における問題点（事例）

事例 1

背景：低学年クラス、朝一限、教師が幼児たちに物語を教えっている。一人ひとりの子どもの前に統一なテキストが置いてある。

先生：クマさんの前は誰ですか、誰かが教えてくれる

(テキストでは、ウサギさんが電車を運転していて、そのページの左に画いてあり、クマさんが電車の中で座って、そのページの右に画いてある)

皆：ウーサーギー

軍波（いきなり立ち上がり、大声で）：左だよ！ウサギさんはクマさんの左だよ

先生（軍波を見ながら繰り返す）：先生が聞いているのは、クマさんの前は誰ですか

豆豆：ウサギさん

先生（軽く豆豆の頭を叩いて）：そうですね、かしこい！皆さん、先生が何を聞いているのがよく聞いてね、軍波、クマさんの前は誰か教えて

軍波：ウサギがクマさんの左にいる

先生：多くの人が集中してないね、先生の質問をよく聞いていない！それじゃだめだよ、さあ、先生について言って「クマさんの前はウサギさんです」

考察：

- ①教師が幼児に評価する時に予想できる答えに方向づける傾向がある。
- ②幼児の個性の豊富性・複雑性を重視していない。
- ③個人差を否定する傾向がある。
- ④幼児の実際の発達レベルを反映できない。

提言：

- ①教師にとって多様な評価観を持つことが重要である。つまり、問題解決する時にただ一つの答を超え、様々な方法を考えさせること。
- ②個性の多様性を促す。
- ③科学的な評価で積極的に幼児に感情支持を提供する。

事例 2

背景：低学年クラス、絵を画く授業、梨とリンゴに色を付ける作業。晶晶がまだ 3 歳（日本の年齢計算によれば 2 歳）、クラスの中最も年下な子である。彼女が真面目にリンゴに色を付けているが、うまく行ってなく、線の外もたくさん色を付けた。ほとんどの子が出来た時に彼女はまだ終わっていない。

先生：晶晶、まだ終わってないの？ほら、何でこんなに汚いの？（リンゴを指しながら）先言ったでしょう、ここに色を付けてくださいって、もう、勝手にやるなんて、早く、梨はまだやってないからね、お父さんお母さんに何を見せるのよ、皆も終わったよ。（隣で遊んでいる非非に）非非、晶晶の残りの部分をやってあげて、早くね、後で体操しに行くから（また、晶晶に）いいのよ、晶晶、描くのも結構、非非が手伝ってあげるから、早く水飲んで

考察：

- ①教師が幼児の作品の結果だけを期待している。
- ②個々の幼児の美術発達の差異を見落としている。

提案：

- ①評価の目的は幼児の発達を育むことが教師として理解すべき。
- ②真実の作品が将来児童の発展状況を把握する最も良い記録である。
- ③発展的な観点から、児童の発達が一つの成長や変化の普遍的、予想できる順序であり、つまり順序性、段階性があるが、発達段階の違う児童の認知・身体・感情など様々な面において個人性もある。そのため、教師として児童の個人性を重視する必要がある。

4. 全体から見たわが国の幼稚園の評価実践における問題

- ①多くの教師がその場で幼児の行為や作品に一次的な評価を行う。
- ②幼稚園の方が科学的な評価結果をうまく利用していない。評価の目的は教育質量の判断手段である。
- ③幼児の人数が多いので、一人ひとりの子どもの考えを把握することが出来なく、大人の立場、考えによって幼児の行為を評価する傾向がある。

5. 総合的な考察

- ①幼稚園の評価実践における問題がたくさん存在する。
- ②教師自信の評価観を変えなければいけない。
- ③科学的に評価し、評価の結果をうまく実践に利用することが大事。

チンタオ市における幼稚園の教育評価の現状分析

前書き：幼児教育評価は幼稚園教育仕事にとって重要な一部分であり、教育の適切性・有効性を把握、教育方法を調整や改善、幼児の発達を促進するための必要な手段である。本文では、観察・インタビュー・質料研究などの方法によってチンタオ市における幼稚園の教育評価現状について論じたい。

一. 実践上の主な成績

1. 教育評価の重要性を気づくようになった、そして幼稚園教育の重要な一部分として認められている。
*教師たちが幼稚園評価は他人のこと、自分と関係ないのような考えから自ら評価実践に参加へと変化している。
2. 成績評価の重視から発達自身の評価の重視へと変化している。
*以前のような、評価は教師を奨励や懲罰、ボーナスを出せるかどうかの判断の標準から幼児の発達状況を判断する標準へと変化している。
3. 管理者の「権威式」評価から民主的・主体的評価へと変わっている。
*園長が教師を批判的な評価から尊敬・信用できる仲間の立場へと変化している。
4. 評価主体の単一化から多元的へと変わっている。(園長、教師、幼児、親)
5. 評価の内容と方法も多元化となっている。
*内容の面では：ゲーム的教授、知識だけではなく感情的な面の重視
*方法の面では：インタビュー、量的評価

二. 存在の問題

1. 科学的、完備な評価の体系がない。
①評価標準が大まかで、内容が簡単(職業道徳、教授能力、教育の質)
②評価標準は科学性が足りない(知識技術を重視するが、積極性・創造性を無視する)
2. 評価結果の整理に十分に重視していない、評価の質を向上する必要がある
*データ整理の科学性がない、分析力が足りない。
3. 評価の内容の面では、教師や幼児の発達に関する評価が多いが、カリキュラムに関する評価が少ない。
*幼児の発達・教師評価・カリキュラム評価の3つの方面の関連性がない。
4. 親の評価参加はまだ表面的な段階に足踏み、深層程度に至っていない。
*親たちが表面的、形式的に参加するが、価値がある意見が少ない。

三. 考察と提案

1. 評価の目的を明確にし、幼稚園園長が教育評価におけるリーダーシップの役割を十分に発揮

する。教師の研修を向上する必要がある。

2. 教師の自己評価を促進し、教師の自己反省を促す。

* 教師の教育観・教授内容・活動設計・環境づくり・教授方法・教授結果・親参加などの面の改善

* 教授活動中に記録する習慣を身につける。

* 事例研究や教授活動の記録を通して常に反省する。

3. 評価に関する研究を支援、完備な評価体系、評価手段をたてる。

* 園長や教師が研修や研究を意識しなければならない。

* 日常生活の教授活動を重視する必要がある。

発展的に教師評価を行う可能性について

前書き：

1. 「幼児教育指導大綱」では評価に関する指摘：「幼児教育評価は幼稚園教育仕事にとって重要な一部分であり、教育の適切性・有効性を把握、教育方法を調整や改善、一人ひとりの幼児の発達を促進、教育の質を向上するための必要な手段である」。
2. 発展性評価の目的：サービスを向上すること、発達を支え、促進することである。

一. わが園（南京市瑞金幼稚園の事例、作者が園長である）の教師評価の特徴

1. 教師の発展方向を把握するために評価する
 - * 教師のそれぞれの性格、潜在力、興味などの特徴を見通し、それぞれの性格に合わせるチャンスを与える。
2. 教師のそれぞれの個性を把握しながら評価する
 - * 教師を批判的に評価するより、平等、感心、発展の立場から園長と教師との相互理解を促進する。
3. 教師のそれぞれの発展のレベルによって評価する
 - * 教師を5つのレベルに分け：適応型、成長型、成熟型、プロ型、専門型
 - * 評価実践：教師互いに補う、教師にプレッシャーをかける、公開授業を検討する、自分の特徴がある教授法を探す。
4. 教師の発展の速度によって、区別しながら評価する
 - * 教師の自己診断、自分で目標設定、自己調整、自己評価を行う。
 - * 幼稚園の各クラスの期末成績、親のアンケート調査、教師の業務評価など全部で手紙の形で教師に送る。

幼稚園の教育活動の評価について

概要：幼稚園教育評価は幼稚園教育活動を順調に行われるための必要な手段であり、幼稚園教育活動が規範化・科学化、幼児や教師の発展を促すために科学的な評価体系を構築しなければいけない。幼稚園教育評価する時には、発展性・段階性・差異性の原則を適応し、観察法・インタビュー・事例分析などの方法を用い、授業の方式の多様性・開放性、授業構成の連関性・柔軟性、教師と児童の相互作用や反省、幼児の感情的な面や全面的な発達を重視する必要がある。

キーワード：幼稚園 教育活動 評価

本文

1. 評価の原則：

①発展性原則

- * 幼稚園評価の最も根本的な目標が幼児、教師、幼稚園の発展を促進することである。
- * 評価の過程は一つのダイナミックな過程である。
- * 情報の交換、フィードバックが必要。
- * 評価の指標、方法、過程などを絶えず調整、改善、完備させる必要がある。

②適応性原則

- * 一人ひとりの子どもの発達状況を把握する必要がある。
- * 評価実践が幼稚園自身の状況、実際に合わなければいけない。

③分類性原則

- * 幼稚園の教授活動が形式的にはゲーム活動、生活活動、グループ活動に分ける
- * 内容的には健康、言語、社会、科学、芸術に分ける

2. 評価の内容

①活動の目標

- * 総合性：ある領域の目標がたくさん領域において実現できる
- * 段階性：幼稚園の教育活動の目標が幼児発達の長期（全ての幼児期）、中期（幼稚園入園から退園まで）、短期（活動の開始から修了まで）の目標を含む。
- * 差異性：目標の設定が幼児整体、団体、個人の需要によって行う、普遍性と個性を結びつくことである。

②活動の内容

- * 生活化：実際の日常生活を通して教授を行う必要がある。
- * 興味性：幼児の絶えず変化している興味によって教授を調整、改善、発展する。
- * 実効性：教科書を教えるではなく、幼児、幼稚園の実際の状況に合わせる教授が必要。

③活動の過程：

- * 活動の方式（多様化）
- * 活動の構造（柔軟性）
- * 教師の役割（援助者、助言者、ガイド）、まず教師が幼児の発達にとって良い環境を作る必要がある。次に幼児を観察し、うまく幼児の興味を発見する。また、幼児の需要・経験・発達レベルを分析し、一人ひとりの子どもに対する援助を行う。

④活動の効果：幼児の活動に関する興味、態度、意欲は第一要素。

幼児の自ら学習、思考、探索、操作の程度及び基礎知識、基本技能の把握なども重要な要素である。

3. 評価の方法

①観察法

- * 活動に参加せず、教師或は幼児の行為を観察する
- * 教師の場合、教師の目標設定、内容の選択、方式の応用、幼児発達への適応性、問題点と解決方を中心とする
- * 幼児の場合、幼児の自然な行為、特徴である行為、幼児の発達の最近接領域を探す

②インタビュー

- * 集団活動の教師の場合：直接回答で、教師の反省を聞く（目標設計、内容選択、方式の応用、突如な出来事の対応）
- * ゲームや生活活動の幼児の場合：自然な会話で子どもの考え、感じ、体験を聞く
- * 自分の感情、態度、アクセント、気持ちを入れずに客観的に事実を聞くのが大事

③事例分析

- * 内容：一つの教育活動の過程、偶然な出来事、1人の子どもの発達過程、子どもの代表的な作品
- * 方法：個人事例、グループ活動の事例、クラス全体の事例

幼稚園の教育活動の評価に関する問題点と改革策

前書き

幼稚園教育活動評価というのは、幼稚園教師が言語、動作、表情などを通して幼児の活動における参加意欲、努力程度、活動方法、活動結果などの方面に関する評価であること。幼稚園教育活動評価における激励の役割、ガイドの役割を十分に発揮することが、幼児教育の質や幼児の発達レベルを向上することにとって重要な意味を持っている。しかし、多くの幼稚園教師が幼児教育評価の重要性をまだ意識していないのは現状である。本文では、新任の幼稚園実習教師の教育評価に関する問題点について愚考を論じたい。

一. 幼稚園教育活動評価における問題点

1. 局部の評価を重視するが全体的な評価を見ていない。
 - * 動物園見学の時に、動物の特徴や数量を強調するが動物園全体の構造などを無視。
 - * 絵を描く時に、色や形状を強調するが想像力を無視。
2. 目標の評価する傾向があるが、過程的な評価が少ない
 - * 春の公園を観察する時に、公園の景物や構造を重視するが、幼児の興味度を無視
 - * ゲーム活動を行う時に、ゲームの技術を強調するが、児童のやる気を無視
3. 縦断的な評価より横断的な評価する傾向がある。
4. 個性より普遍的な評価をする傾向がある。
5. 評価の方式が単一である。

二. 改革提案

1. 科学的な評価の標準を作ること
 - * 一つの評価標準で異なる出来事、異なる子どもに適用することができない
2. 科学的な評価方法を用いること
 - * 目標評価と過程評価、全体評価と局部評価、横断的な評価と縦断的な評価、普遍評価と特別評価を結びつけること。
 - * 言語評価と表情、動作、客観、全体な評価を結びつけること。
3. 具体的な評価の解釈を入れること
 - * 例：子どもを褒める時に、具体的に「どこが良い、どこが足りない」の説明と婉曲的な言い方が必要である。

幼稚園の教授活動に関する評価の改革と新機軸

キーワード：体験式の授業評価 主体理解 相互作用

一. 伝統的な授業評価の問題点とその原因

1. 自身を軽んずる、権威を軽々しく信じる

*現場の教師が実際の教授経験に富んでるが、理論的な知識が足りないので、何でも研究者の言う通りに従う。

2. 「面子」(メンツ)に関わり、痛みを避ける

*同僚間の評価がよく互いの利益や面子に関わり、皆に好ましいアドバイスや意見だけを述べる。

*見学授業の時でも同僚同士で暗黙なルールによって、評価するのが事実である。

3. 形式簡単、評価は表面的

*形式：評価者が意見や問題点を述べ、受評者が指摘を受ける。

*見学授業の時だけの、「その場での反省」になってしまう。普段の教授活動に与えられた衝撃が小さい。

4. 教授法だけに注目し、教育理念に関する転換には簡単に出来ない

*評価者たちがよく見学授業そのものに焦点を当て、如何に教授方の選択や授業の有効性を向上することに注目する。長い目で見る評価が少ない。

*現場の教師たちが具体的なアドバイスや教授に関する意見だけに関心を示し、教育理念に関する転換には簡単に出来ない。

二. 教授活動の評価を適切に位置づけ、伝統的な評価モデルを改善する

1. 評価の役割：教授活動と研究活動と結びつけること。

*1コマ2コマの評価ではなく、教授レベルを向上するための評価

2. 評価主体の多元性

*評価者と受評者との関係が互いに対立するわけではなく、対話的な関係作りが必要である。

3. 評価が綿密にする必要がある

*例えば：ビデオの形で授業を丸ごとにとること。

*具体的に：授業の背景、授業の目標、授業の準備、授業の進行、授業の終わり、教材、幼児の反応など。

4. 評価の形式が柔軟化

*例えば、評価の座り方が円卓会議の形にしたり、お茶を飲みながら評価したりする。

三. 体験式の授業評価のモデル

授業を見学する時にビデオで録画



公開授業の教師の自評



同僚の評価



教育専門家の評価



互いに討論する



コメント、まとめ

質的評価方法が我が国の幼稚園評価に与える啓発

キーワード：質的評価方法 幼稚園教育評価

一. 質的評価の方法

1. 「ポートフォリオ（成長記録）」の評価方法
2. ソクラテ式の評価方法

二. 質的評価がわが国の幼稚園教育評価に与えられた啓発

1. 評価の主体が多角度、役割が多角化されている

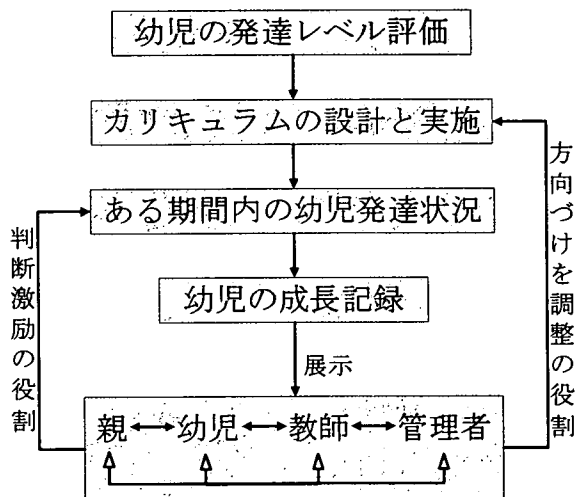


図 評価主体の多角度、役割が多角化（ポートフォリオ評価）

2. 評価がダイナミック化になり、開放性を持つようになる。
* 創発な考え方、想像力、創造力を育み、個性を重視する。
3. 評価の方式が形成性評価を中心とする

表1 教師、親が子どもの物語る表現に関する評価

クラス	名前	日付
物語の名前：	物語の概要：	
言葉の表現（はっきり、速度など）：		
身体言語（表情、手振りなど）：		
物語に故事性について：		
物語の主人公について：		
物語に関する理解について：		
見事な表現：		

表2 幼児が物語に関する評価

名前	日付
この物語が好きですか：	
はっきり表現できますか：	
最もいい所は：	なぜ：
どこか足りない：	どうやって改善します：
前回と比べてどうですか：	

4. カリキュラム、教授、評価の三つの方面を一体化にする

幼児教育機関の教育の質の内包及びそれが児童発達に与える影響

一. 概論

1. 構造的な面から評価した質

- *教師/児童の人数の比率、クラス人数、教師の質、環境設備など
- *行政管理や上級指導

2. 過程的な面から評価した質

- ①評価の内容：児童と教師との相互作用、学習環境、カリキュラム、健康と安全、親参加など。
- ②注目されている研究：児童と教師との相互作用
- ③評価方法：直接観察
- ④児童の発達と教育機関との関係：教育機関が幼児の認知、社会的発達に積極的、長期的な影響がある。

二. 構造的な面から評価した質の内包及びそれが児童の発達に与えられた影響

1. 教師/児童の比率とクラスの数

- *海外における研究：小規模のクラスが幼児の発達に適切である
- *我が国の研究：教師/児童の比率とクラスの数との二つの要素が幼児の発達に影響を与えない。

2. 教師免許や資格と受けたトレーニング

- *教師の学歴が幼児との発達との直接の関係がない。
- *教師の転職が幼稚園の福利、給料、研修、行政の政策などとの関係がある。

3. 教育行政の管理

- *園長の評価、幼稚園運営の計画・制度、教師の教授と福利、各種記録、予算と保険、幼児のプライバシーなど。
- *我が国の研究：上級の指導が都市部の幼児の発達に与える影響が少ない、農村部の幼児の発達と正相関になる。

三. 過程的な面から評価した質の内包及びそれが児童の発達に与えられた影響

1. 児童と教師との相互作用

- *我が国の観察による研究：児童の認知発達が教師の優しい度と直接の関係がある。

2. カリキュラム

- *最も幼児に発達に影響を与えられるのが：児童に教材を利用させる頻度、教材・内容・仲間の選択、教師の参加度、幼児の参加度

3. 学習環境

- *空間の面積、教室の状況、設備、空間の手配と利用、材料と玩具、建築材料、換気、騒音などと幼児発達との関係がある。

4. 健康と安全

*食物、水、生活習慣などと幼児の発達と関係がある。

5. 親の参与

*家を訪問する、親との会談、親に情報を提供するなどが幼稚園の発展にとって重要である。

四. 我が国の地方幼稚園機関などの等級評価標準の現状

1. 評価標準：各地の幼稚園等級評価標準

2. 内容：園の設備、教師の質、園務管理、教授活動、衛生保健、親参加

足りない点：教師と児童との比率（1：30）、クラス人数（多い）、教師と児童との相互作用、教師研修。

3. 教師の学歴：資格だけで評価する

4. 教師の研究意識がない

5. 沿岸部の幼稚園が贅沢な規模を追求する傾向がある、幼児の発達を無視する。

6. 幼児の発達の早期の読解力に関心がまだ足りない。

7. 農村部と都市部の格差が大きい。